

JIA

MAGAZINE

2 FEBRUARY 2010 | 261

年間テーマ:「設計環境を再考する」

■ 年頭所感:インタビュー 2010年に向けて
 JIA会長 出江 寛
 聞き手 古市徹雄

■ 「全ての建築をゼロカーボン建築として設計する」
 中村 勉

■ <中国建築最前線特別取材>
 伝統文化と超高層との衝突か、それとも融合か。
 第一線級に聞く「中国建築事情と問題点」

世界で活躍する建築家
 「前衛的デザインと中国のアイデンティティ」
 Studio Pei-Zhu Zhu Pei

中国建築界の頭脳
 「建築教育とグリーンビルディングへの取り組み」
 清華大学建築学院 清華大学建築設計研究院

中国一巨大な、4000人規模の政府系ラージファーム
 「歴史を風景として投影する『本土設計』を目指す」
 中国建築設計研究院 副院長 崔 愷

日本人建築家の活躍
 「中国の設計システムと日本人の活躍ポイント」
 北京松原弘典建築設計咨询有限公司 松原弘典

■ UIA2011news vol.14
 UIA2011東京大会準備委員会 委員長 佐野吉彦

- JIA九州支部大会2009 大分 「ひと・まち・匠」
- JIA中国支部建築家大会2009 in下関 「環境再生」
- 建築家のあかりコンペ2009 講評



TOPIX

出江寛JIA会長 今年の重点項目発表 1.建築家資格のオープン化の始まり 2.設計環境の業務改善 3.建築基本法 4.次期会長への望み



建築家
 architects

建築家のあかりコンペ2009

『日本のあかり』をテーマとして作品募集した「建築家のあかりコンペ2009」の最終審査がJIA全国大会京都2009にて開催され、結果を本誌11月号にて速報。今月号ではその詳細および審査員の講評を掲載します。(主催/社団法人日本建築家協会・大光電機株式会社)

審査委員長
審査員

芦原太郎 (建築家)
内原智史 (ライティングデザイナー)
堀木エリ子 (和紙ディレクター)
藤本壮介 (建築家)
前芝辰二 (大光電機株式会社代表取締役社長)
出江 寛 (社団法人日本建築家協会会長)

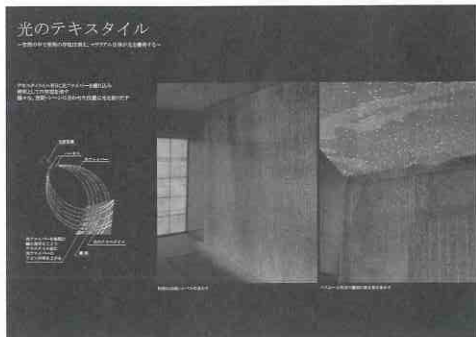
特別審査員

最優秀賞

「光のテキスタイル」

中村雅子

(株)タジェール



101点の応募作品から、2009年9月10日に10点の入賞作品を選出。最終審査会で下記の通り決定しました。

最優秀賞	中村 雅子	(株)タジェール	光のテキスタイル
優秀賞	竹内 申一	竹内申一建築設計事務所	光鈴
	近 智行	マリモ・デザイン・アトリエ	UKIZUKI -浮月-
特別審査委員賞	荻原 雅史	荻原雅史建築設計事務所	MUSUBI
佳作	久保 貴史	建築設計事務所 no office	electrical knit
	久保田 英之	久保田英之建築研究所	Sliding Partition Light
	山本 充彦	(有)エーアールネット	LIGHT TUBE ひかりの灯籠
	秋田 憲二	株式会社エイチエイケイ	一期一会
	松村 哲志	AMBIENCE	ホノカナアカリ
	今井 勝英	I. M. A.	ヒカリノイタ

<総評>

審査委員長 芦原太郎 (建築家)

「建築家のあかりコンペ2009」は今年で3回目を迎え、作品総数も昨年のほぼ倍となる101点となりました。会員のみならず、会員が属する事務所スタッフも参加可能になったこともあります。このコンペの認知が上がってきている結果だと思います。

建築家というのは、常に創造的に物事をとらえ、生活に反映させてゆくことを率先して進めてゆく任務があると思っています。今回のコンペでは、照明技術の変化をどのように人間の創造的生活につなげているのかということがポイントになるのではないのでしょうか。提案の多くはグラスファイバー、LED、有機ELといった新しい技術を用いたものでした。その上で、最優秀賞の中村氏はテキスタイル、竹内氏は地域、環境といった視点を明確に持ち、建築家らしい提案をされていた点を評価しています。

今回審査をしながら感じたことは、アイデアをとるのか、商品化の可能性をとるのかという点です。今年は昨年の審査委員長出江会長の総評の反映なのか、アイデア重視の提案がとても多くありました。是非来年からは、アイデア部門、商品化部門を分ける、もしくは選ぶ際にそういった枠を持たせて審査する、といった明確な落とし所を設けて行えば、更にこのコンペの狙いが鮮明になってゆくのではないかと思います。このコンペが引き続き行われ、更に発展してゆくことを心より願います。

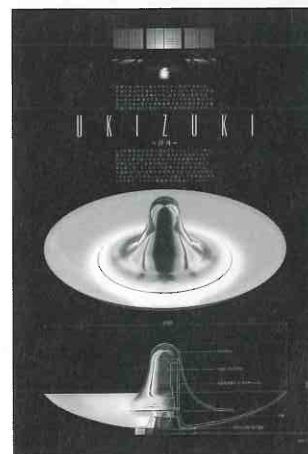
優秀賞 「光鈴」

竹内申一



優秀賞 「UKIZUKI -浮月-」

近 智行



講評

特別審査員 **出江 寛** (社団法人日本建築家協会会長)

「建築家のあかりコンペ2009」はJIA全国大会京都で開かれた。テーマは“日本のあかり”であり、京都の風土にもピッタリであった。アトラクションでは先斗町の舞妓が祇園小唄であてやかな舞を見せていただいたが、舞台が煌々と明るすぎ谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」の薄暗い中で舞妓の怪しげな美しさを堪能出来ず残念に思っていた時、中村雅子さんの「光のテキスタイル」で出来た茶室風の薄暗い天井には星が輝き、足元にはさざ波のような光が美しく、このなかで舞妓を舞わせれば、きっと異次元の美しさを堪能出来るだろうと思った。

竹内申一さんの「光鈴」は日本の風の気配を音で表現する風鈴に対し、風の気配を「光」で表現しようとするものでこれは面白い。紙のように薄い有機ELの短冊が風に揺れると発光するもので、お祭りや各種イベントに使うと美しく幻想的な空間が広がり楽しい。

近智行さんの「浮月」は足利義政の銀閣寺の「銀砂灘」(湖に見立てた砂庭)に「向月台」(砂の円錐上部を切った形)上部を月に見立て、水面に映る月として酒盛りをしたが、庶民に出来るものではない。そこで盆に水を張り「月を掬う」の美学を室内で楽しもうというもので面白い。

萩原雅史さんの「MUSUBI」<出江賞> 結びは冠婚葬祭の御祝儀、香典などの水引等、古来より日本におけるあらゆるものはこの線の要素を基調とした「結びつき」で成立している。これを光として表現して。あらゆる場所でのイベントのシンボルとして使え、新しい日本の表現として文化的である。

講評

審査員 **藤本壮介** (建築家)

このコンペの面白いところは、単に建築家が照明器具を考えるということを超えて、明り、光とはどういうかたちで僕たちの日常生活と関わることができるのか、その可能性を、手のひらに乗るようなスケールから建築、そして都市スケールにまで広がるビジョンとしてみる点にあることを実感した。

1等の中村案は布の中にグラスファイバーを織り込むことで、住空間の中に意外な形で光を共存させる。かすかに滲むような気配のような光が、室内に流れ込んでくる。その空間のイメージが美しかった。

久保案は、コンセプトが面白かった。僕たちが普段目にしているソケットと電球とコードという照明の最小限の設えから、編む、という行為によって、魔法のように生み出される存在。日常からの一瞬での飛躍。しかしプレゼンテーションのときに持参してくれた実物は、その飛躍が徹底されていなかったような気がする。サイズや細部の作り方によっては、あるいは見せ方によっては、すごく面白いものになったのではないかなと思う。

竹内案は僕が一番好きな案だった。風鈴と明りを組み合わせるという視点は、ロマンチックにすぎたかもしれないが、それらが都市の中に広がって行って、小さな照明器具が都市のライトスケープを作り出す、というイメージの広がりがうれしかった。最新のテクノロジーと自然の風、そして変わらぬ僕たちの日常をつなぎ合わせる提案だと思った。

講評

審査員 **内原 智史** (ライティングデザイナー)

環境問題など、白熱灯の一部の光源にエネルギー効率の悪さゆえの矛先が集中し、LEDが過剰に取りざたされる昨今。光が常に経済効率だけで語られてよいものかはわたくしの職業柄からだけでなく、日常の生活全般にかかわる「照明」だけに気になるところです。

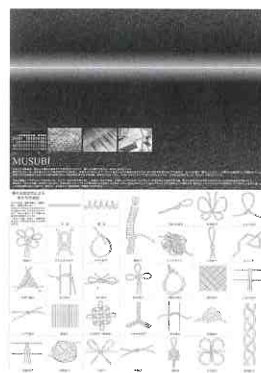
時代のニーズによって新しい光源が多くクリエイターの関心を集めることは、もちろん大いに歓迎すべき現象ですし、とりわけ空間をデザインする建築家の手によって、光の魅力そして可能性が建築空間の中心にさらに位置付けられることを願ってやみません。

形あるものは常に、我々の視覚情報の大部分を占めているようにとらえられがちですが、そのすべての形態が光を媒体として「伝わる」かぎり、すべての視覚表現は光の中に存在するといっても過言ではありません。しかもその定量的な形態情報が情緒的印象をともなって価値を高めたり、人間の創造性を喚起する波動(エネルギー)に変換されることも光の現象であるといえます。

建築内部の一つ一つの空間から外観全体においても、「器に光を注ぎ込む」ような、心洗われる、心温まる作品との出会いを毎年楽しみにさせていただいています。

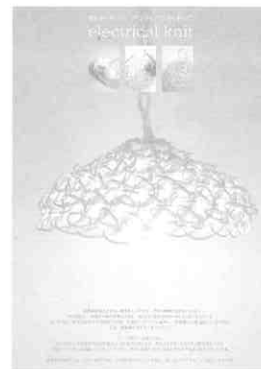
特別審査委員賞 「MUSUBI」

萩原雅史



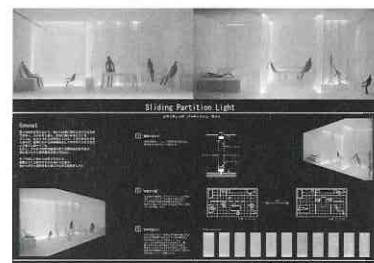
佳作 「electrical knit」

久保貴史



佳作 「Sliding Partition Light」

久保田英之



佳作 「LIGHT TUBE ひかりの灯管」

山本充彦



佳作 「一期一会」

秋田憲二



今回のテーマは、「日本のあかり」。さぞや和紙や竹や漆といった日本の伝統素材を使った作品が多いのだろうと思って一次審査にのぞみましたが、意外なことに、和の素材を使った作品は少数でした。

全体的に、素材に頼らない切り口や考え方が盛り込まれていたという意味では面白いコンペになったと思います。

最優秀賞の「光のテキスタイル」は、照明器具という「物」としてのとらえ方ではなく、空間を構成する壁や天井、窓などの大きな面が光という「環境」としての提案であり、いろいろなファイバーの種類や多様な織りの手法が加わることで空間演出の中が広がっていく可能性を感じました。

優秀賞の「光鈴」と「浮月」は、実用的な照明器具ではなく遊び心が溢れた作品。情緒や情感といった日本独自の美学を形にしている「日本のあかり」というテーマの解釈が面白いと思います。

日本の伝統素材を使わなくても和の表現はできますが、私は伝統素材である和紙の世界で仕事をしているので、「日本のあかり」というテーマでのコンペにおいて、二次審査に残った作品に伝統素材がまったく無かったことには寂しさを感じました。

同時に、日本の伝統素材に対する興味が希薄になっていたり、その扱い方が解らないということに対して、日本の伝統産業の継承についての危機感を新たにしました。伝統素材が、伝統的な手法だけとどまらず、現代の最新の照明

技術を取り入れて新しい可能性を広げていくことの必要性をしみじみと感じた審査会でした。

佳作

「ホノカナアカリ」

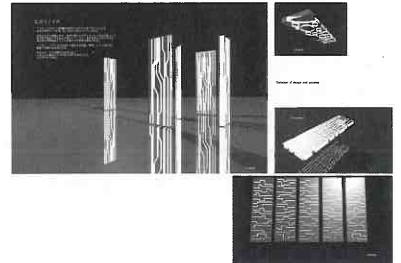
松村哲志



佳作

「ヒカリノイタ」

今井勝英



新情報 活用ファイル

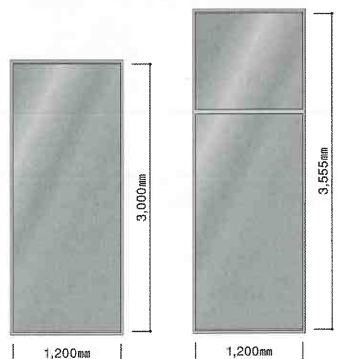
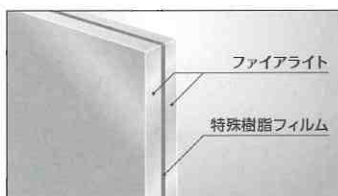
防火性能に衝撃安全性をプラスした
最上級の防火ガラス
「ファイアライト・プラス」 新発売

電気硝子建材株式会社

超耐熱結晶化ガラス「ファイアライト」を特殊樹脂フィルムで合わせガラスにした「ファイアライト・プラス」が、特定防火設備の認定を取得し、新発売。

超耐熱結晶化ガラス「ファイアライト」がもつ高い防火性能に加えて合わせガラス化することで万が一、人や物が衝突しても割れにくく、もし割れた場合でも大きなガラス破片が落下したり飛散したりしない安全性を兼ね備えた最上級の防火ガラス。

さまざまな人が集まる学校や公共施設などにご使用頂く防火ガラスとして適している。



特定防火設備の認定は、鋼製はめ殺し窓(欄間付)最大サイズ：1200mm×3555mm、鋼製はめ殺し窓：最大サイズ：1200mm×3000mmの2種類。

お問合せ先：
電気硝子建材株式会社
東京支店：
03-3632-7721
大阪支店：
06-6392-2711

認定品：耐熱合わせガラス
[ファイアライトプラス]入
鋼製はめ殺し窓
認定番号：申請中
認定最大寸法：1,200×
3,000mm
ファイアライトプラス：
ファイアライト5mm厚品の
合わせガラス

認定品：耐熱合わせガラス
[ファイアライトプラス]入
鋼製はめ殺し窓(欄間付)
認定番号：EA-0245
認定最大寸法：1,200×
3,555mm
ファイアライトプラス：
ファイアライト4mm厚品の
合わせガラス

平成21年度 住宅・建築関係事業者技術力向上支援講習会
「長期優良住宅に関する技術講習会」追加開催のお知らせ

住宅・建築関係事業者支援中央協議会 事務局

「長期優良住宅に関する技術講習会」は、平成21年6月4日付「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」が施行されたことにより、長期にわたり良好な状態で使用するための措置がその構造及び設備について講じられた優良な住宅の普及を促進するため、長期優良住宅建築等計画に係る認定基準等の講習を実施し住宅・建築関係事業者の技術力の向上を図ることを目的として全国で開催実施しております。新たに、全国8会場で「長期優良住宅に関する技術講習会」の開催が決定いたしましたのでお知らせいたします。

- (1) プログラム
 - ① 講習内容
 - I) 長期優良住宅の普及の促進に関する関連法規及び税制
 - II) 申請手続きについて
 - III) 認定基準について
 - ② 講習時間：約3時間20分
- (2) 企画・実施等

企画・実施：一般社団法人 住宅性能評価・表示協会
後援 国土交通省
- (3) 開催日程等

会場名	日時	開催場所	住所	定員
仙台会場	平成22年3月3日(水) 13:30~16:50	仙台国際センター	仙台市青葉区青葉山無番地	100名
東京会場	平成22年3月8日(月) 13:00~16:20	発明会館	港区虎ノ門2-9-14	100名
横浜会場	平成22年2月4日(木) 13:00~16:20	神奈川産業振興センター	横浜市中央区尾上町5-80	100名
新潟会場	平成22年2月22日(月) 13:00~16:20	新潟ユニゾンプラザ	新潟市中央区上所2-2-2	100名
名古屋会場	平成22年2月18日(木) 13:30~16:50	総合資格学院名古屋校	名古屋市中区錦1-2-22	100名
大阪会場	平成22年2月24日(水) 13:30~16:50	エル・おおさか	大阪府中央区北浜東3-14	100名
広島会場	平成22年2月1日(月) 13:30~16:50	広島県情報プラザ	広島市中区千田町3-7-47	100名
福岡会場	平成22年3月2日(火) 13:00~16:20	天神ビル11階10号会議室	福岡市中央区天神2-12-1	100名

- (4) 申し込み方法等の詳細について
講習会参加には、事前のお申し込みが必要です。
ホームページで、「技術支援講習会」の開催日時・場所等を掲載しており、オンライン申し込みができます。また、リーフレットのダウンロードができます。

URL <http://www.koushuukai.jp/>
又は

技術支援講習会 検索 (google, MSN等)